



色彩館に咲く

パンジー

Viola × wittrockiana

スミレ科スミレ属



古くから愛されてきた春の花

パンジーは数種の複雑な交配から生じた園芸品種群です。パンジーが属するスミレ属は、多岐にわたる種と園芸品種を持ち、世界中に分布しています。花や香りを楽しむ他にも、古くから薬や食用等にも用いられて来た歴史があります。ヨーロッパでは人に思慕の情を掻き立たせると言われ、古くから歓心をつなぎとめたい人に花を贈りました。シェイクスピアの「真夏の夜の夢」という喜劇には、この花から作った惚れ薬が出てくることからその事が伺えます。ナポレオンも好み、結婚記念日には妃であるジョセフィーヌにいつも花束を贈ったとされています。

園芸品種としてのパンジーが積極的に作られるようになったのは1813年からとされ、イギリスの園芸家トムソンにより選抜が始められました。これにより、1835年までの間に400の園芸品種ができたといえます。当時は展示会などでの観賞が主でしたが、次第に花壇での利用に重点が置かれるようになり、それに伴って種子による増殖が普及してゆきました。現在でも、世界中で種苗会社や個人育種家たちの手によって、新たな品種が誕生しています。日本にも自生しているスミレ科のものは数多くありま

すが、園芸品種のパンジーがもたらされたのは1864年頃です。「遊蝶花(ゆうちょうか)」または「三色(さんしき)スミレ」と呼ばれて親しまれていました。昭和40年頃に入ると種苗会社による品種改良が盛んになり、世界的にも評価の高い品種を多く作出していきました。

流通している園芸品種の中には、比較的小輪で無数の花が咲くグループがあります。このグループの多くは、ピレネー原産の「ヴィオラ コルヌタ」という種の血を強く持った系統で、日本ではこのグループをヴィオラ、または小輪パンジーと呼びます。しかし最近では、このグループの品種と大輪系品種を交雑した新たな品種がつくられ、区別が難しくなりつつあります。ちなみにピレネーとはフランス、スペイン、アンドラ公国にまたがる山脈の名前です。

パンジーの多くは耐寒性が強く、北海道でも秋に植え込んで雪の下で越冬させることができます。色彩館では低温ハウスで越冬させたパンジーとヴィオラを1月に植え込みました。その花壇が徐々に賑やかになってきていますよ。つるバラも咲き始めるので、一足早い春を見に来るのも楽しいですね。



春が近づくに連れて気温も上がり、いよいよ雪の下からバラが顔を出し始めます。冬囲いを撤去後に枝が活着しているか、一番重要な点である耐寒性が問われる場面です。耐寒度を表すハーディネスゾーンという数値はバラの品種選びで非常に役立ちますが、参考にしても凍害に遭ってしまうケースもあります。雪が多いところ、少ないところ、最低気温の違いなど、その土地により様々な条件がありますが、結局は実際に栽培してみなければその品種の耐寒性はわかりません。同じ耐寒度の品種でも当然差はあり、試行錯誤しながら品種選定を行っています。北国のバラ栽培では、凍害による枯れ込みによってショックを受けることが多々あります。つるバラではせっかく伸びたのに根元まで枯れ込む、なんてこともあります。もうすぐドキドキの成績発表がやってきます。より多くの枝が助かっていることを願うばかりです。

平成 29 年度 いわみざわ公園バラ園作業ボランティア

『トムテ』のなかま 募集

◆◆◆『トムテ』とは ◆◆◆

そのお家のお手伝いをしたり守ってくれる、スウェーデンの妖精の名前です。



岩見沢の市の花は「バラ」です。

市民の皆様にもっと親しんでいただけるバラ園になっていきたいという思いを込めて、作業ボランティアを募集しています。バラについて少しずつ学びながら、バラ園と一緒に育んでみませんか？



活動方法などくわしくはホームページで確認、または電話・メールなどでお問い合わせください。(室内公園 色彩館まで)

TEL 0126-25-6111 FAX 0126-25-6177

E-Mail info@iwamizawa-park.com

HP <http://www.iwamizawa-park.com/volunteer/tomte.html>

ウグイスの話



ホーホケキョ。

雪が溶けて畑が顔を出し始めましたね。冬の間固く閉じていた木々の芽も開き始めました。それだけでも十分に春を感じますが、ウグイスのさえずりは春の訪れを一層強く感じさせます。

日本三大鳴鳥の一つで、その美しいさえずりは、昔からヒトに愛されてきました。現在では捕獲・飼育を禁止されていますが、昔はウグイスの「鳴き合わせ」というさえずりを競う会もあったようです。

実は、「ホーホケキョ」には意味があります。これはオスが番のメスに「縄張りの中に危険はないぞ。」と知らせているのです。仲睦まじいですね。

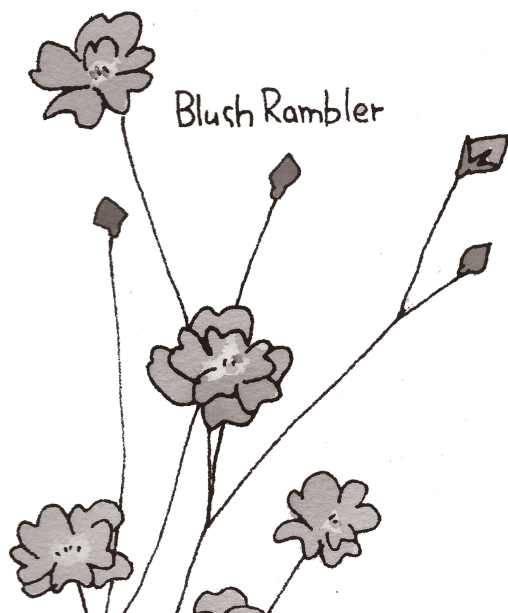
よし
なし
ごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)



第三十八回

ランブラーローズ

ブラッシュ ランブラー

Blush Rambler

作出国：イギリス

作出者：Benjamin R. Cant & Sons

作出年：1903年

ハーディネスゾーン：Z6

一季咲き性

交配：Crimson Rambler × The Garland

半八重の浅いカップ咲きの小輪で、1枝に20輪くらいの花をつける大房咲きで、微香です。花は可憐な淡いピンク色で、ときに花弁の先が濃い色になり、房咲きになるとグラデーションが美しくそのかたまりは圧巻です。枝はたくましくよく伸びしなやかで、棘はしっかりとありますが扱いやすく、下垂して開花するため、アーチやパーゴラ、壁面などの花房が見上げられる位置に誘引するととても魅力的です。強健で栽培しやすいですが、うどんこ病にやや弱いという欠点もあります。イギリスでは20世紀初頭のエドワード8世時代に、田舎屋風の庭(コテージガーデン)に植えるつるバラとしてポピュラーな品種だったようです。

この品種は、クリムゾンランブラーとザガーランドの交配で誕生した品種です。多くのノイバラ系のランブラーの交配親となったクリムゾンランブラーの血を引き継いでいます。うどんこ病に弱いという性質も受け継いでしまったようです。クリムゾンランブラーは今ではほ

ぼどこでも取り扱っていない古典株ですが、当園で見ることができます。ザガーランドはつるバラをロープや鎖に絡めた仕立ての名で、白くて清楚な美しさをもつ花です。棘はきついですが、枝がしなやかであり、ブラッシュランブラーにも引き継がれています。こちらも当園で栽培しています。今は雪がとけ中から姿を出し始めたころですが、こちらの交配親となる2品種も是非見てみて下さい。

当園では、バラ園のウェルカムガーデンと色彩館の大温室で栽培していて、なかでも屋外と温室両方で栽培している数少ない品種のひとつです。色彩館の株は、見上げるほど大きく成長していて、早くて4月中旬～下旬頃から咲き始め、5月中旬頃まで楽しむことができます。ウェルカムガーデンのは、6月下旬～7月上旬頃が見ごろです。まだまだ未熟な株ではありますが、少しずつ大きく成長し、これからが楽しみです。まずは色彩館での開花を見に足を運んでみてください。

外は桜、なかはバラ。

室内公園「色彩館」のつるバラは
4月中旬ごろから5月中旬ごろまで。

高さ約4m・約20品種のつるバラが
温室の壁面いっぱいに咲き誇ります。
この時期にこれほどのバラを見られるのは、北海道でここだけ。
外の桜とのコントラストも美しい。

ぜひご覧あれ。

4月の市民園芸講座のご案内

- 4月9日(日) 13:00~15:00 **ハンギング作りの基本**
料金：1,500円～(容器代は別途2,000円) 定員：40名
講師：梅木 あゆみさん 月形コテージガーデン
～今年は梅木さんによるハンギング作りの実演をします！～
- 4月16日(日) 13:00~15:00 **庭木・花木管理の基本**
料金：無料 定員：40名
講師：川原 元信さん 川原花木園
- 4月22日(土) 10:00~12:00 **ばらゼミ②剪定～大丈夫。やってみる。**
料金：無料 定員：40名
講師：工藤 敏博さん ローズグローワー
- 4月23日(日) 13:00~15:00 **家庭菜園を楽しもう**
料金：無料 定員：40名
講師：大道 雅之さん 拓殖大学北海道短期大学

これは面白い!

